

木之本ブックギャザリング

Kinomoto Book Gathering



木之本ブックギャザリングは、本を題材にした対話が人と人をつなげる、ささやかな集まりです。毎回選ばれた1冊の本を事前に読み、その本を通じて感じたこと、考えたことを対話を通じて深めていきます。

第1回 2026.6.19 Fri 18:30-20:00

宮本常一『忘れられた日本人』(岩波文庫)

第2回 2026.8.21 Fri 18:30-20:00

第3回 2026.10.9 Fri 18:30-20:00

※第2回以降に題材とする書籍は第1回参加者の皆様のご意見も伺いながら追ってご紹介します

場所

江北図書館 Lib+(リブプラス)

滋賀県長浜市木之本町木之本1362
(JR木ノ本駅から徒歩1分)

申し込み

こちらのリンクからお申し込みください
<https://forms.gle/AdVMhy2Kjtaq9v2R8>

各回定員15名(定員になり次第締切ります)



ファシリテーター



岩寄博論(いわさきひろのり)

長浜市高月町出身。市内の高校を卒業後、東京の大学に進学。リベラルアーツと建築・都市デザインを学んだ後、東京の広告会社においてマーケティング、ブランディング、イノベーション、事業開発などに従事。2021年より武蔵野美術大学クリエイティブイノベーション学科教授に着任。長浜市内でも教育や研究プロジェクトを行っている。



木之本ブックギャザリングとは？

木之本ブックギャザリングは、本を通じて人と人がつながる読書会です。

ギャザリング(gathering)とは、人々の小さな集まりのことを指します。スモールギャザリング(small gathering)などとも言われます。顔と名前がわかる範囲の人数で集い、対話が生まれるような場のことを指します。

木之本ブックギャザリングは、毎回一つの本が選ばれ、参加者は事前にその本に目を通して感じたこと、考えたことを、集まりの中で対話を通じて深めていきます。本を題材にした対話が人と人をつなげる、ささやかな集まりです。

題材となる本は、古典と言われる長く人々に読み継がれてきたものが選ばれます。文庫本などのできるだけ安価で手に入りやすいものにして、多くの人を手軽に手に取りやすくなるようにします。

会場は長浜市木之本町にある江北図書館(こほくとしょかん)です。江北図書館は明治時代に設立された私設図書館を起源に持ち、今もまちの人々に支えられている本のまち木之本を象徴する存在です。ブックギャザリングのファシリテーターは、木之本町の隣町、高月町出身で武蔵野美術大学の岩寄博論がつとめます。

プログラム

事前に題材となる書籍を手に入れて、目を通して来てください。全部を読んできていただいてももちろんいいですし、部分的に読んできても大丈夫です。

会の冒頭に、皆さんが本の中で印象に残った箇所をご紹介いただき、そう思った背景や考えたことなどを共有することから対話を始めます。

参加費

参加費は無料です。
題材となる書籍を各自購入もしくは図書館で借りるなどして持参してください。

問い合わせ先

主催 岩寄博論 武蔵野美術大学／NEXT 200 Project (WEB: <https://hriwsk.com/>)
共催 江北図書館 (TEL: 0749-82-4867)